

## 災害後を考える「復興住宅」・「仮設住宅」視察

現在、三重地域会では、東海支部と三重県との間で防災協定を結ぶべく協議を重ねていますが、その中で県の防災対策部には復興を担当する部署がないということを知りました。そこで、2016年に三重地域会で開催した建築文化シンポジウムにパネラーとして参加いただいた、元JIA副会長の辺見美津男氏にご協力をお願いし、8月28日から29日の2日間、復興住宅の視察を主目的として福島県に研修に行くことになりました。

1日目、東北新幹線で郡山へ。まずは郡山市内初の「認定こども園さいこん」を見学しました。あの未曾有の大震災から7年半が経ちますが、福島県と被害にあった東北の他県とでは事情が違います。第一原発のある双葉郡は6町2村で、その内富岡町、双葉町、大熊町などは一部を除いてまだに帰宅困難地域です。また、帰宅可能となった後も住民のほとんどが戻っていない町もあります。今回見学させていただいた「こども園さいこん」もその富岡町から避難された施設でした。

白河市の辺見氏の事務所に移動し、震災から今日に至るまでの活動について聞くことができました。復興公営住宅の建設が進むと共に仮設住宅の取り壊しが始まっています。本来、仮基礎の仮設住宅には長く住んでいられません。経済的に自立でき

なくなってしまうといった実情もあります。来年3月には、帰宅困難地域のための仮設住宅も有料になるそうです。

いわき市に建つ復興公営住宅のプロポーザルについても詳しく聞くことができました。地元高校生や建設業者との共同による取組計画で、地域の桧や杉を利用し、景観や周辺環境に配慮したデザインや高齢者を含む多様な世代の入居者への配慮など、ハウスメーカーとは明らかに違ったコンセプトで、採用されたのは当然のことだと感じました。

2日目にいわき市に移動し、それらの復興住宅を実際に見学することができました。辺見氏の説明の通り、被災者しか入居できないなどの縛りがあるためか、空き家が目立ちました。よく考えられたコミュニティのための小道やランドスケープも数人の高齢者を見かけたくらいで、その日の曇天もあって少し物悲しくなりました。

広野町に移動し、建設中のふたば未来学園を見学後、いわき市に戻り、安藤邦廣氏が設計された板倉工法の仮設住宅を見学に行きました。ちょうど解体されている様

米蔵を改装した  
辺見さんの事務所での懇親会



いわき市の復興住宅（写真提供：辺見美津男設計室）

子を見ることができましたが、丁寧に解体された80%近くの部材が復興住宅に再利用されると聞き、大変驚くとともに、「仮設住宅」についてあらためて考えさせられました。

今回の視察は実に濃い内容となり、ここで全てについて書き尽くすことができず残念ですが、古い米蔵を改築された辺見事務所の素敵な空間で、美味しい料理とお酒をいただきながら、スタッフの皆さんと大いに語り合ったことは大変良い思い出になりました。

いろいろとお世話になり、本当にありがとうございました。心からお礼を申し上げます。



豊田由紀美 (JIA 三重) |  
Y's 建築設計事務所

